

解答・解説

問1 傍線部内の重要古語・文法は次のとおり。

「いかばかり」…副詞。(程度についての疑問を表し)「どれくらい、どれほど、どれほどか」と訳す。
 「らむ」…現在推量の助動詞。①(現在眼前にない事柄を推量する意)「今頃は〜しているだろう、〜しているのだろう」
 ②(原因・理由の推量)「(どうして)〜しているのだろう」③(伝聞・婉曲の推量)「〜とかいう、〜ような」。

▶選択肢判定チェック◀

- ア 「いかばかり」「らむ」の訳がすべて正しい。(○)
 どれほど嘆いているだろうか。
 イ 「らむ」は現在推量の助動詞。「たことだろう」は過去推量。(×)
 どんなに嘆いたことだろうか。
 ウ おそらくひどく嘆いたことだろう。
 「ひどく嘆いたことだろう」では嘆きの程度の推量になっていない。また「たことだろう」は過去推量。(×)
 エ きつとたいそう嘆いているだろうか。
 「たいそう嘆いているだろう」では嘆きの程度の推量になっていない。(×)

よって、正解はア。

問2 選択肢の語句・表現と、本文の語句・表現を丁寧と比較して正誤を判断する。

場面1

馬がいなくなる＝「悔いず」
 馬がほかの馬を連れて戻る＝「悦ばず」

場面2

息子が落馬によって骨折＝「悔いず」

▶選択肢判定チェック◀

- ア 翁は元の飼い馬が多くの馬を引き連れて戻ったので不思議に思った。
 馬を失っても「悔いず」、多くの馬を連れて戻っても「悦ばず」と本文にある。(○)
 イ 翁は馬を失っても反対に馬が増えても嘆きも喜びもしなかった。
 翁の息子の骨折の原因は、戦争によるものではなく、落馬である。(×)
 ウ 戦争が起きて多くの若者は死んだが翁の息子は骨折だけで済んだ。
 骨折したのは翁の息子であり、翁本人ではない。(×)
 エ 翁は目を疑うようなひどい骨折をしても決して後悔しなかった。

よって、正解はイ。

古文の世界

主語の判別

古文は、主語となる人物名が省略された文章が多いので、主語に該当する人物名と、それに対応する述語を押さえる。文を構成する最小単位である「誰が―どうした」を確認しながら読んでいくのが有効な方法である。同時に、複数の人物が登場する場合、それぞれの人間関係も、書き出してメモしておく、頭の整理が楽になる。この問題文の場合、「あやしと思ふほどに」の部分の主語が明確に書かれていないが、馬を失った翁は「悔いず」とばかり言ひて、つゆも嘆かざりけり。」とあるので、これに続く「あやしと思」った人物は、翁以外の人物であることがわかる。

出典 十訓抄

時代、一二五二年成立。
 若者への教育啓蒙のため、「人倫を侮らざる事」など十の教訓にもとづく説話を、先行の『大和物語』『江談抄』『古事談』や、『史記』『漢書』などから集め、約二八〇話を取める。

5 復習 「十訓抄」

解答・解説

文法Q 省略Q 解答と品詞分解・現代語訳

昔、唐土に北叟といふ翁あり。賢く強き馬を持ちたり。これを人にも貸し、我も使ひつつ世を渡る頼昔、中国に北叟という老人がいた。利口で強靱な馬を持っていた。これ（Ⅱこの馬）を人にも貸し、（また）自分でも使いながら世間で生きて

助動詞 過去原因推量 ・ 連体 形

りにしけるほどに、この馬いかにしたりけむ、いづちともなく失せにけり。聞き渡る人、「いかばかり嘆いく手段としていたうちに、この馬がどうしたことだろうか、どちらともなく姿を消してしまった。（そのことを）耳にした人は、「どれほど嘆

助動詞 現在推量 ・ 連体 形

助動詞 打消 ・ 連用 形

くらむ」とて訪ひければ、「悔いず」とばかり言ひて、つゆも嘆かざりけり。あやしと思ふほどに、この

翁は 少しも嘆かざりける。不思議なことだと思っているうちに、この

助動詞 断定 ・ 已然 形

馬、同じ様な馬を多く具して来にけり。いとありがたきことなれば、親しき、疎き、喜びを言ふ。か馬が、同じような馬をたくさん連れて（戻って）来た。とてもめったにないことであつたので、親しい人も、親しくない人も、そのお祝いを言う。

助動詞 打消 ・ 終止 形

かれども、また「悦ばず」と言ひて、これをも驚く気色なくて、この馬あまたを飼ひてさまざまに使ふしかし、また「喜ばない」と 翁は 言つて、これに驚く様子もなくて、このたくさんの馬を飼つて 様々の用に使っている

間に、翁が子、今出で来たる馬に乗りて、落ちて右肘を突き折りにけり。聞く人、目を驚かして訪ふにも、うち、（この老人の息子が、新しくやって来た馬に乗って、落馬して右肘を突いて骨折してしまつた。（それを）聞いた人が、驚いてお見舞いに行つ

た時も、

なほ「悔いず」と言ひて気色も変はらず、つれなく同じ様にいらへて過ぎけるに、その頃にはかに国に「悔やんだりし 翁は 言つて顔色も変わらず、何事もなく同じように答えて過こしていたが、その頃急に国にな」と

戦おこりて兵を集められけるに、国中さもある者残りなく出でて皆死ぬ。戦争が起つて兵を集められたところ、国中のしかるべき者たちが残ることなくみな（戦場に）出て全員死んだ（Ⅱ戦死した）。

単語Q 解答

- ア 見舞う。訪れる。イ 少しも・全く・全然（～ない）。
ウ 付き従える。エ めったにない。珍しい。